

特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議(第 64 回)

日時：令和 7 年 3 月 21 日（金）14:00～16:00

場所：名古屋市公館 レセプションホール

会 議 次 第

1 開会

2 あいさつ

3 議事

(1) 水堀の活用（舟運）について（船着場の設計） <資料 1>

(2) 二之丸庭園の修復整備について <資料 2>

4 その他

5 閉会

特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議（第 64 回） 出席者名簿

■ 構成員

（敬称略）

氏 名	所 属	備考
瀬口 哲夫	名古屋市立大学名誉教授	座長
丸山 宏	名城大学名誉教授	副座長
小濱 芳朗	名古屋市立大学名誉教授	
麓 和善	名古屋工業大学名誉教授	
三浦 正幸	広島大学名誉教授	
藤井 譲治	京都大学名誉教授	

■ オブザーバー

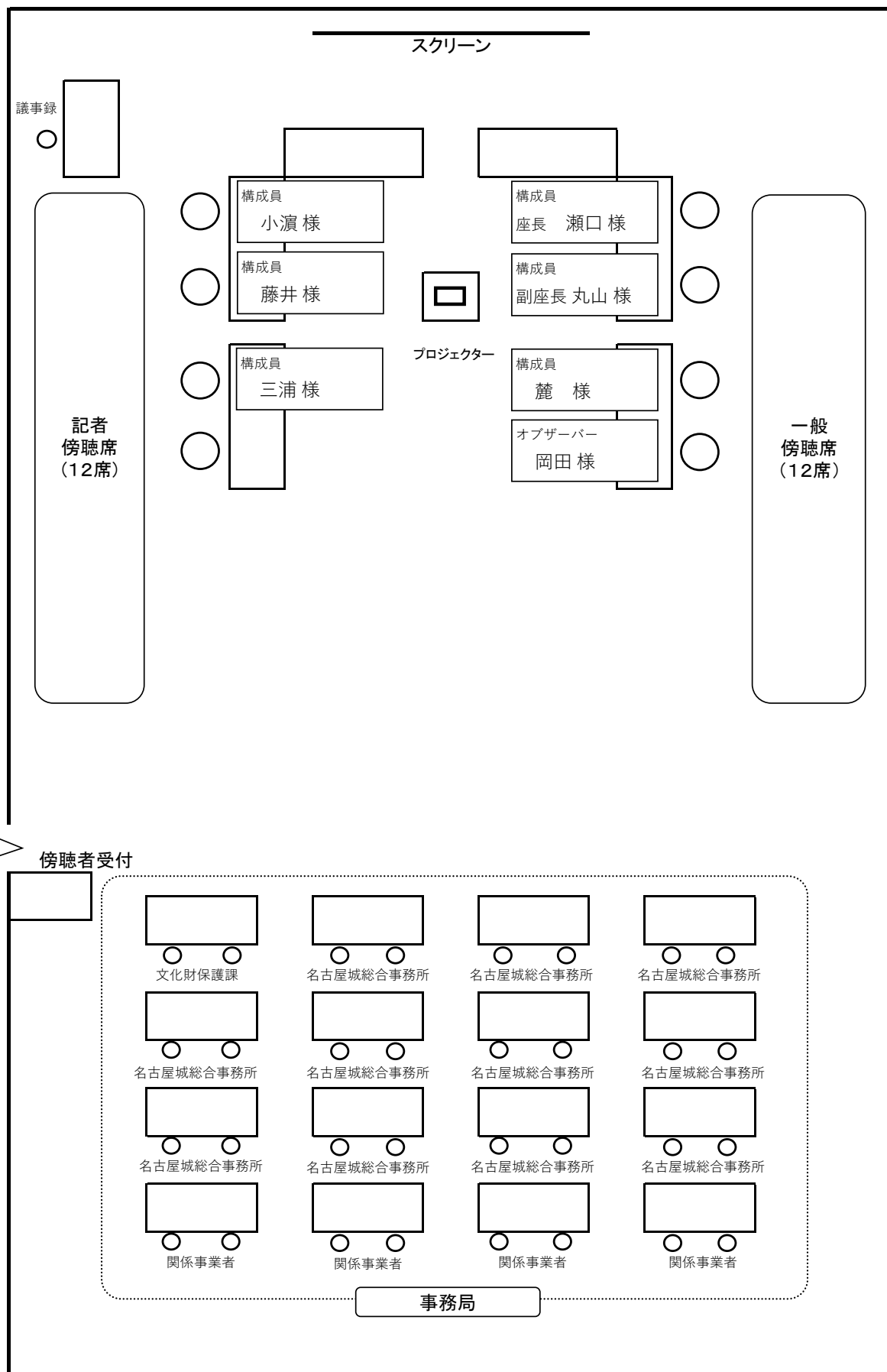
（敬称略）

氏 名	所 属
岡田 邦裕	愛知県県民文化局文化部 文化芸術課文化財室 室長補佐

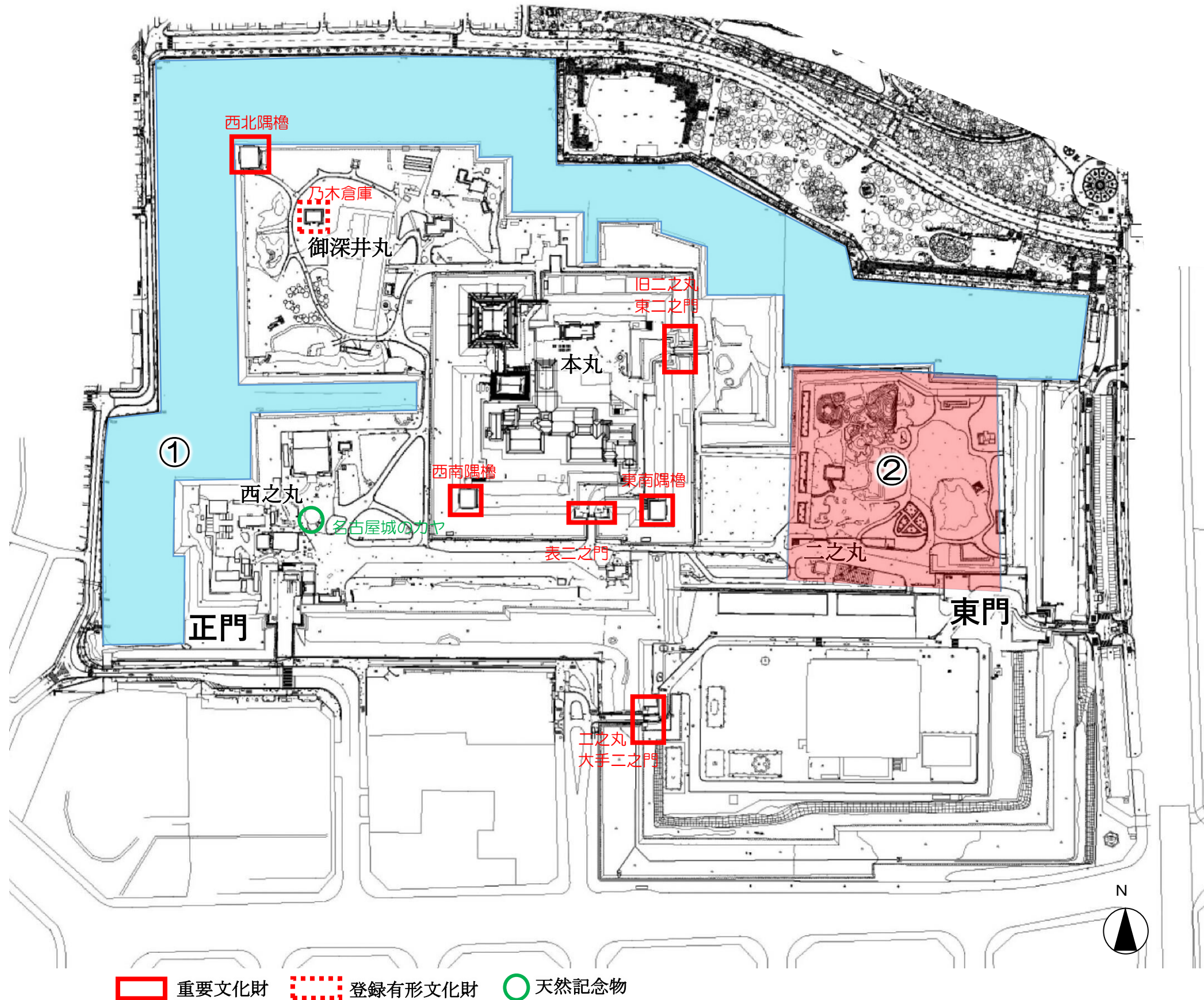
第64回特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議

座 席 表

名古屋市公館 レセプションホール



第 64 回全体整備検討会議 議題位置図



議事

- ① 水堀の活用（舟運）について
「船着場の設計」
- ② 二之丸庭園の修復整備について
「余芳周辺の石橋、燈籠、植栽等の整備」

事 項	月	4	5	6	7	8	9	1 0	1 1	1 2	1	2	3
【天守閣整備事業】（H29（2017）年度～） ○天守台及び周辺石垣の保存対策		◎ 石垣保存対策 （修復及び補修を実施する具体的な範囲や手法について）◎											
【水堀の活用（舟運）】（R 4（2022）年度～） ○運航概要、船着場等の検討		運航概要、船着場等の検討◎											
○辰の口・南波渡場発掘調査				発掘調査			整理						
【本丸搦手馬出周辺石垣の修復】（H14（2002）年度～） ○積み直し工事		積み直し工事											
【植栽管理計画の策定】（R 4（2022）年度～） ○植栽管理計画の策定				植栽管理計画の策定◎									
【園路改修計画の策定】（R 5（2023）年度～） ○園路改修計画の策定		園路改修計画の策定◎											
【園内サイン改修】（R 5（2023）年度～） ○園内サインの改修		園内サインの改修◎											
【二之丸庭園の保存整備】（H25（2013）年度～） ○修復整備工事					修復整備工事◎								
○余芳の移築再建		移築再建工事											
【西之丸展示収蔵施設周辺の整備】（H26（2014）年度～） ○外構整備工事					外構整備工事								
【表二の門等の保存修理】（R 元（2019）年度～） ○表二の門雁木復元検討等		雁木復元検討等											
【本丸御殿長期保全計画の策定】（R 6（2024）年度～） ○長期保全計画策定に向けた調査				長期保全計画策定に向けた調査									
【特別史跡名古屋城跡の石垣保存方針策定】（R 4（2022）年度～） ○石垣の現況把握・保存方針策定・安全対策の検討		保存方針・安全対策の検討											
【重要文化財建造物等保存活用計画の策定】（R 6年（2024）度～） ○重要文化財建造物等の保存活用計画策定に向けた調査		保存活用計画策定に向けた調査◎											

※ ◎：計画の策定や現状変更許可の取得に係る内容を全体整備検討会議に付議する想定時期

水堀の活用（舟運）について（船着場の設計）

1 船着場の設計方針

辰之口の発掘調査より、排水部分に加え、船着場の設置予定箇所においても、排水部分を覆うように大きな護岸状の遺構が検出された。

この発掘調査結果や昨年度実施した社会実験等でのご意見なども踏まえ、船着場の設計方針を以下に示す。

（遺構の保存）

- ・遺構保護の観点から、原則遺構の露出展示は行わず、土中保存とする。遺構露出部についても、カバー等で養生する
- ・船着場の整備は、遺構へかかる荷重が極力小さくなるよう配慮する

（辰之口の理解促進）

- ・発掘調査成果等を記載した解説看板の設置など、理解促進を図る
- ・船着場からは、辰之口排水路を間近で見られるようにする

（待合所）

- ・歩道との高低差解消には、階段及びスロープを設置する
- ・辰之口排水路を間近で見られるようにする
- ・土中保存する遺構へかかる荷重を抑制するため既設鋼矢板に荷重を負担させる

（舟の係留施設、舟）

- ・舟の係留施設は、遺構への影響及び水位変動に対応するため浮棧橋とする
 - ・北からの強風による舟への影響を抑制するため、乗降箇所は南北方向とする（棧橋への舟の接触を抑制）
 - ・固定するためのアンカーを設置する。なお、堀底への影響を抑制するため、アンカーは置き式とする
 - ・舟は遺構への影響や喫水などの関係から、小型の舟を想定している
- ※車いすの方の乗船方法など、検討が必要

2 船着場の設計

設計方針を踏まえ、待合所及び舟の係留施設の設計を行う。船着場の設計概要を表 1 に、計画平面図を図 1 に、計画断面図を図 2 に示す。

表 1 船着場の設計概要

	項目	概要	備考
待 合 所	基本構造	躯体は既製品鋼材、床材は既製品床版材のデッキ構造	
	転落防止設備	転落防止柵：高さ 1.1m（全周に設置）	※ 1
	階段	蹴上げ：0.13m、踏面：0.35m 幅員：1.5m（手すり設置）	※ 1
	スロープ	縦断勾配：8% 幅員：1.5m（手すり設置）	※ 1
	歩道からの出入口	門扉を設置	時間外の侵入防止
	床材	再生木材	景観性、耐久性、経済性
	基礎（下部工）	既設鋼矢板上部に笠コンクリートを設置し、デッキの荷重を負担 デッキ下は元の埋立土よりも軽量の土で埋戻し、表面は鉄筋コンクリートを面的に施工することで、主桁等からかかるデッキ部の荷重を分散	遺構へかかる荷重を抑制
係 留 施 設	渡り橋	アルミ製トラス構造	軽量、たわみ抑制
	浮棧橋	アルミ製セパレートタイプ	耐久性、経済性
	アンカー	重力式コンクリートアンカー	

※1 名古屋市福祉都市環境整備指針（移動等円滑化のために必要な特定公園施設の設置に関する基準を定める条例、都市公園の移動等円滑化整備ガイドライン）

3 今後の予定

令和 7 年（2025）度には船着場の整備に着手し、令和 8 年（2026）度のアジア・アジアパラ競技大会開催までに運航開始を目指す。また、事業進捗にあわせ、シンポジウムの開催など、水堀等に対する理解促進を図る。

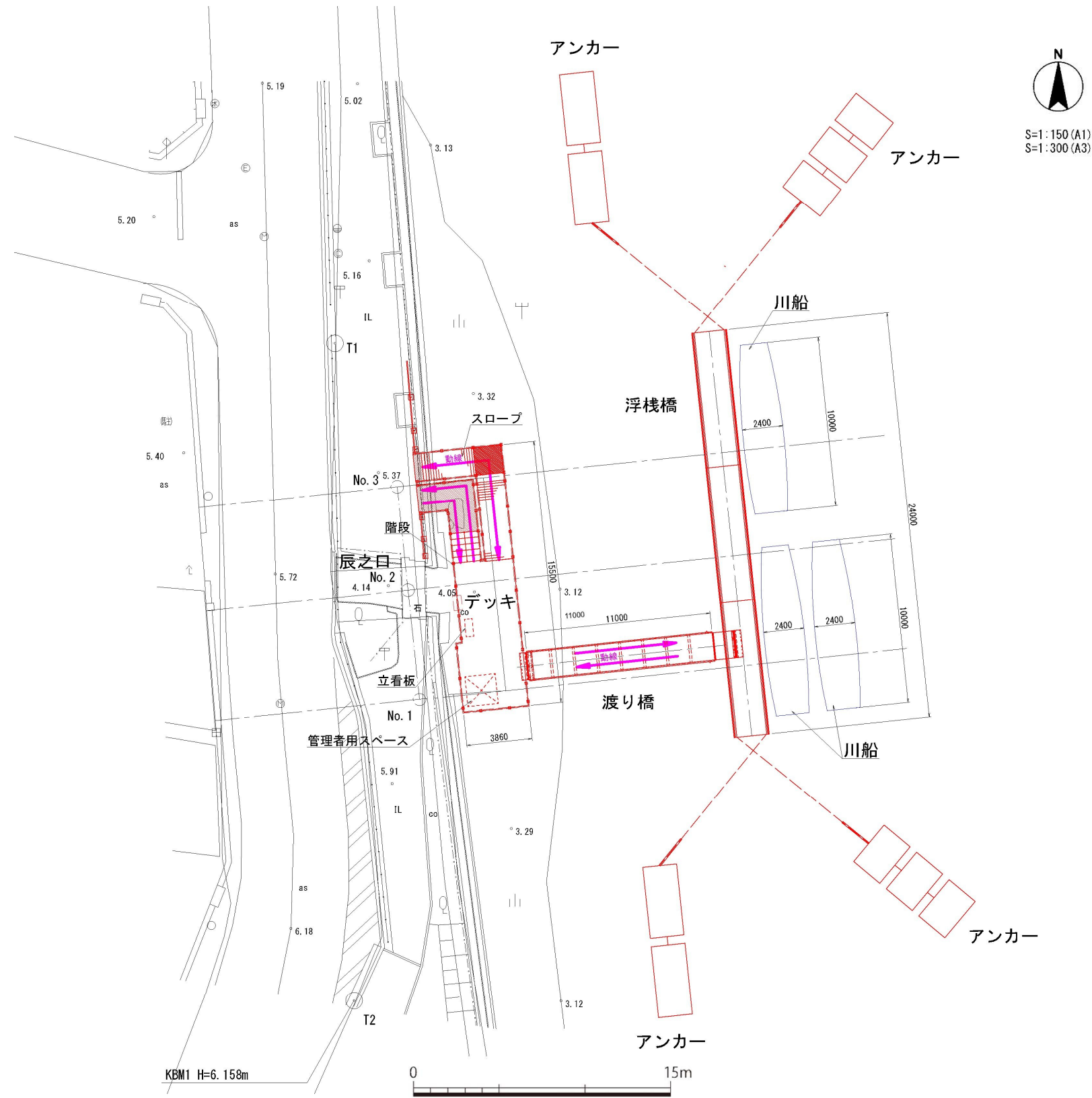


図 1 船着場の計画平面図 (S=1/300)

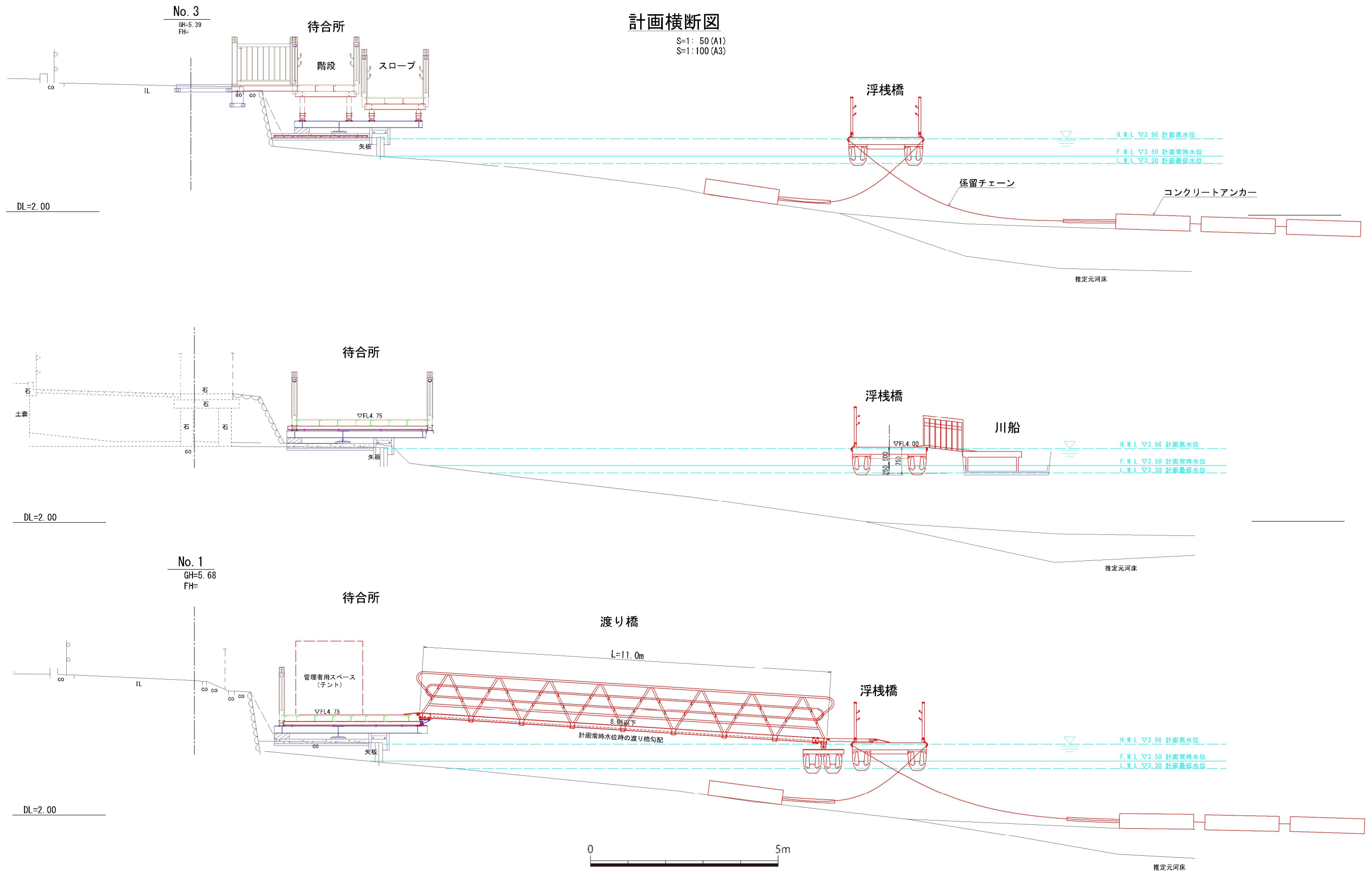


図 2 船着場の計画断面図（北向き）（S=1/100）

二之丸庭園の修復整備について

1 余芳周辺の整備

余芳周辺整備にあたり、石橋、燈籠、立ち手水鉢、標柱、植栽、余芳の雨落ち、景石の配置について検討した。修復整備は、北御庭については『御城御庭絵図』に描かれた空間性を回復することを基本とするが、同時代に描かれた『尾二ノ丸御庭之図』は、『御城御庭絵図』と異なる箇所が見られるため、2つの絵図を比較検証した。『尾二ノ丸御庭之図』と『桜御間南御庭四季之図』には、植栽名が記載されており、樹木選定に際し史料として取り扱う。また、余芳と思われる第14代藩主慶勝によって撮影された古写真についても史料として取り扱う。

(1) 古絵図

- ア 御城御庭絵図／作成年代：文政年間（名古屋市蓬左文庫所蔵）（図1-1）
第10代藩主斉朝により改修された二之丸庭園を詳細に描いた絵図で、文政年間に作成されたと考えられる。
- イ 尾二ノ丸御庭之図／作成年代：文政以降（徳川美術館所蔵）（図1-2）
文政期の庭園を描いた詳細な絵図であり、二度の大きな修正が認められる。
- ウ 桜御間南御庭四季之図／作成年代：文政以降（名古屋市蓬左文庫所蔵）（図1-3）
二之丸御殿の桜之御間南御庭を描いた絵図であり、植栽については樹種や尺寸が記されている。

(2) 古写真

- ア 第14代藩主慶勝によって撮影された写真。余芳に関する写真は1枚確認されている。（徳川林政史研究所所蔵）（写真1-1）



図 1-1 『御城御庭絵図』
（名古屋市蓬左文庫所蔵）

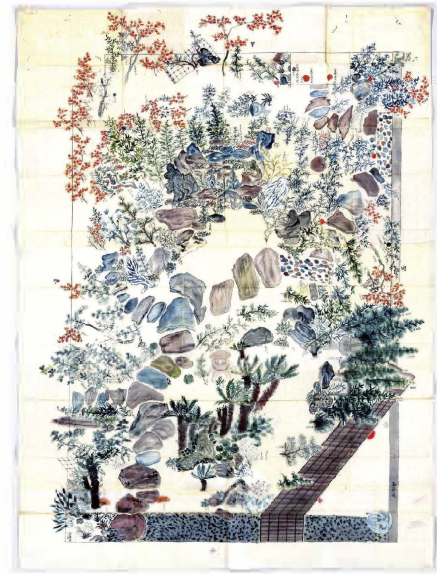


図 1-3 『桜御間南御庭四季之図』
（名古屋市蓬左文庫所蔵）

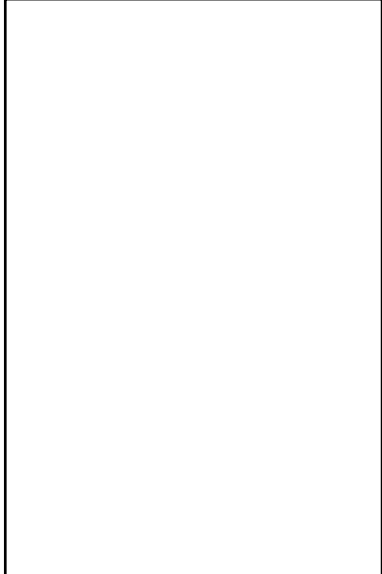


写真 1-1 二之丸御庭の御茶屋
（徳川林政史研究所所蔵）

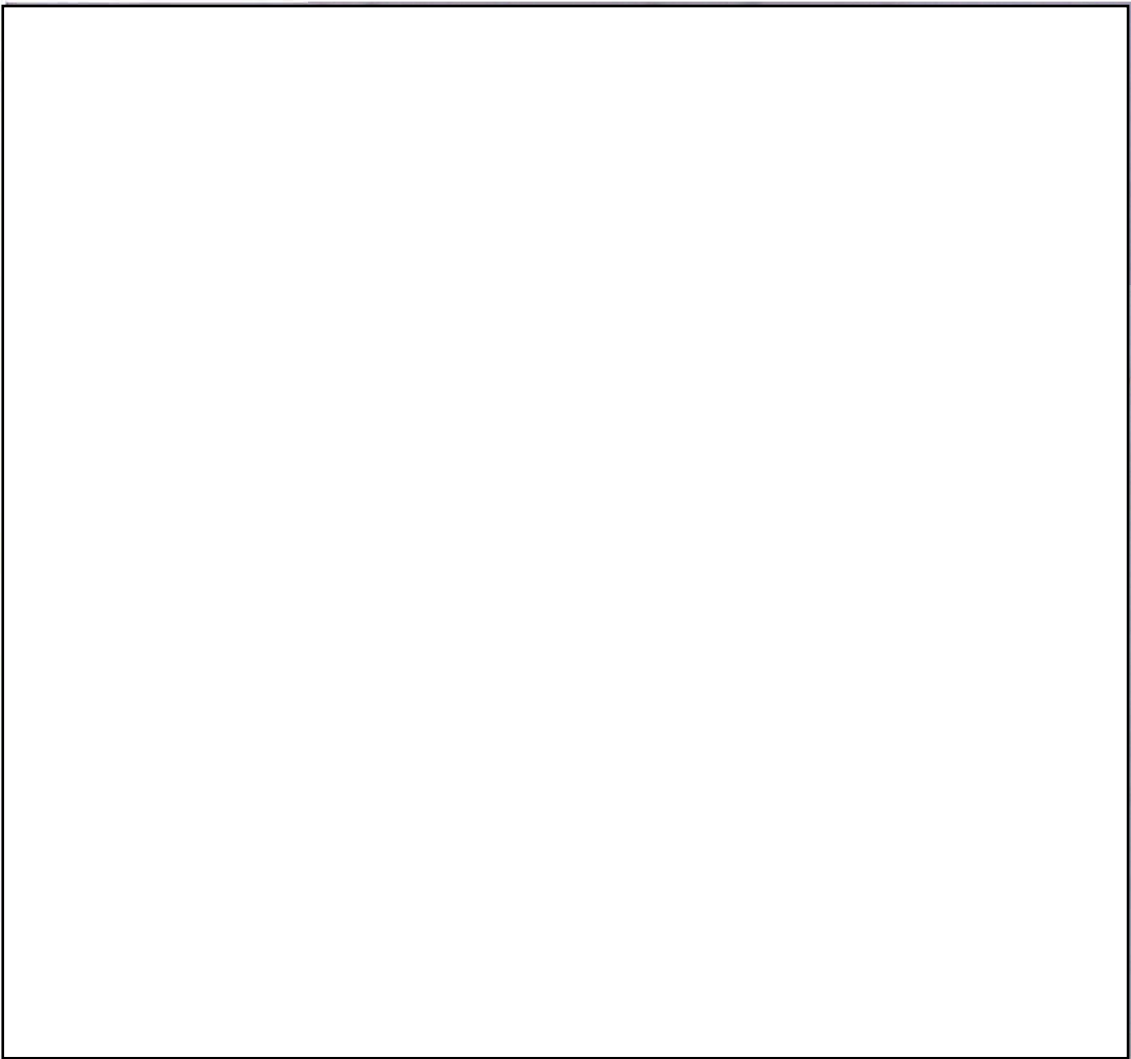


図 1-2 『尾二ノ丸御庭之図』
（徳川美術館所蔵）

(2) 石造物の構造検討

ア 雪見燈籠-1

- 雪見燈籠-1は、図2-4、2-5の絵図について検討を行った結果、兼六園の雪見燈籠（W1870×H1870）（写真2-3、図2-6）を参考にした製作品とする。
- 庭園部会にて、現地で実寸パネル模型にて大きさを比較検討した結果、兼六園よりひと回り小さいW1500×H1500とする。（写真2-4）
- 表面はノミ切ビシャン仕上げとする。



図2-4 雪見燈籠-1『御城御庭絵図』部分
（名古屋市蓬左文庫所蔵）

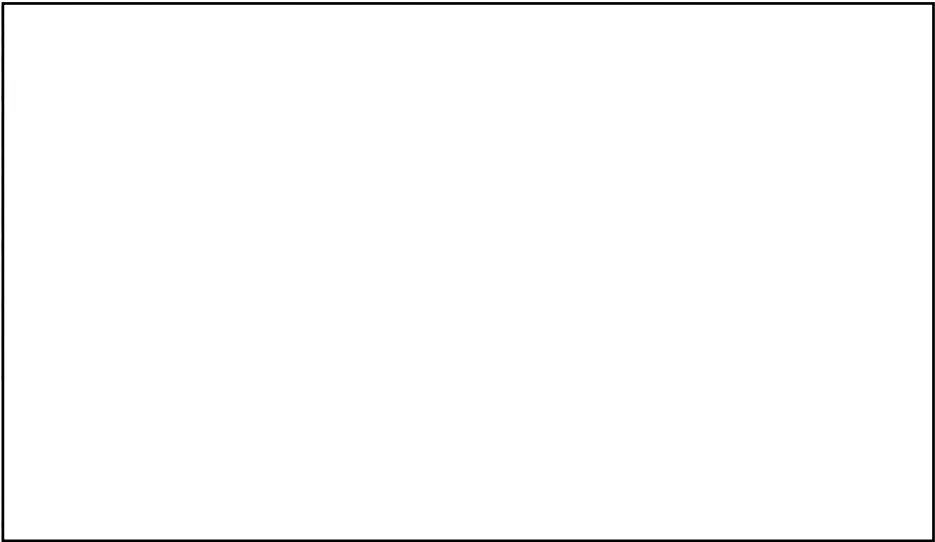
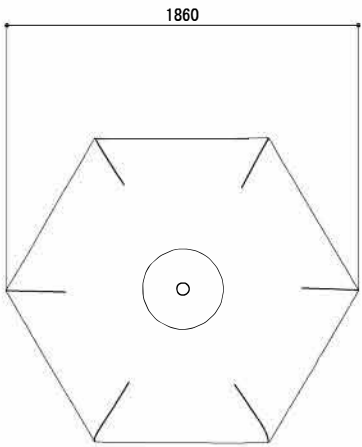


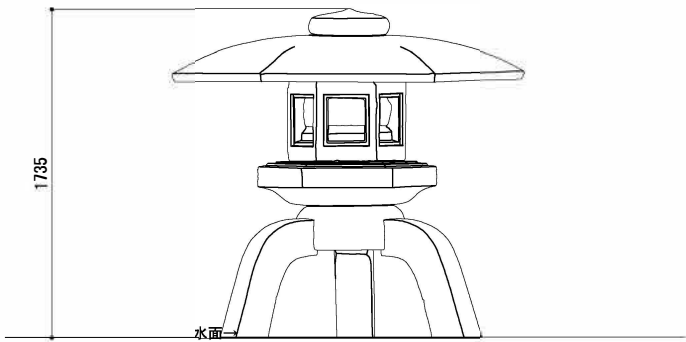
図2-5 雪見燈籠-1『尾二ノ丸御庭之図』部分
（徳川美術館所蔵）



写真2-3 兼六園雪見燈籠



平面図 S = 1 : 40

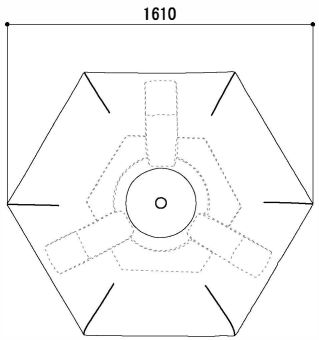


断面図 S = 1 : 40
（兼六園実測図）

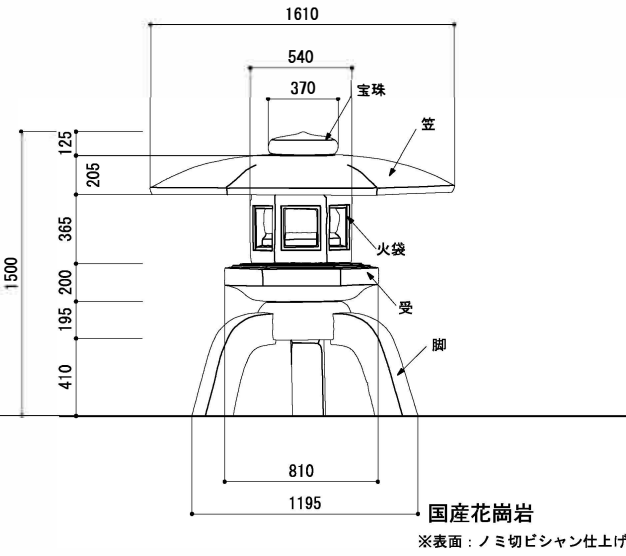
図2-6 兼六園雪見燈籠 実測図



写真2-4 雪見燈籠-1 実寸パネル（W1500×H1500）配置状況



平面図 S = 1 : 40



断面図 S = 1 : 40
（兼六園実測図 H1500 サイズに縮小 86.5%）

図2-7 雪見燈籠-1 構造検討図

イ 雪見燈籠-2

- 雪見燈籠-2は、古材を検討し、適切なものがなければ部分的に製作品と組み合わせる。
- 絵図より、雪見燈籠-2の大きさは、雪見燈籠-1よりも小さいこと、市場性とを考慮し高さH=900mm、幅W=900mmとする。
- 脚の本数及び形状は絵図の比較検証結果より、4本一体型とする。
- 石材について、笠、火袋、受は古材（写真2-5）を使用する。
- 脚については、市場性を考慮し古材（参考事例：写真2-6）を使用する。
- 宝珠は笠と同等の国産花崗岩で製作する。表面はノミ切ビシャン仕上げとする。



図 2-8 雪見燈籠-2『御城御庭絵図』部分
（名古屋市蓬左文庫所蔵）

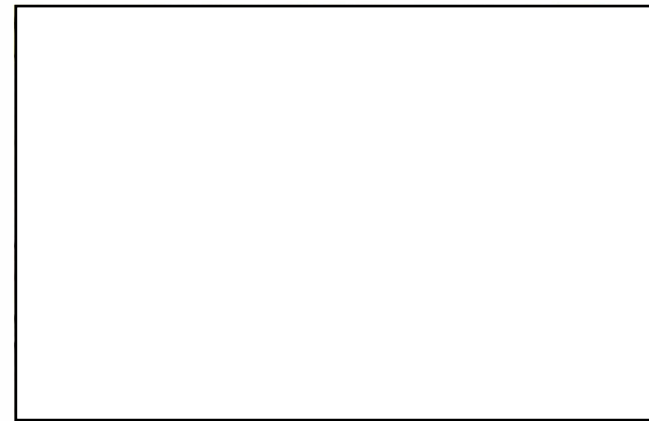


図 2-9 雪見燈籠-2『尾二ノ丸御庭之図』
部分（徳川美術館所蔵）



写真 2-5 雪見燈籠-2 古材（笠、火袋、中台）

古材使用（笠、火袋、中台）

古材不使用



写真 2-6 雪見燈籠-2 古材（脚：4本）

古材不使用

古材使用（脚）

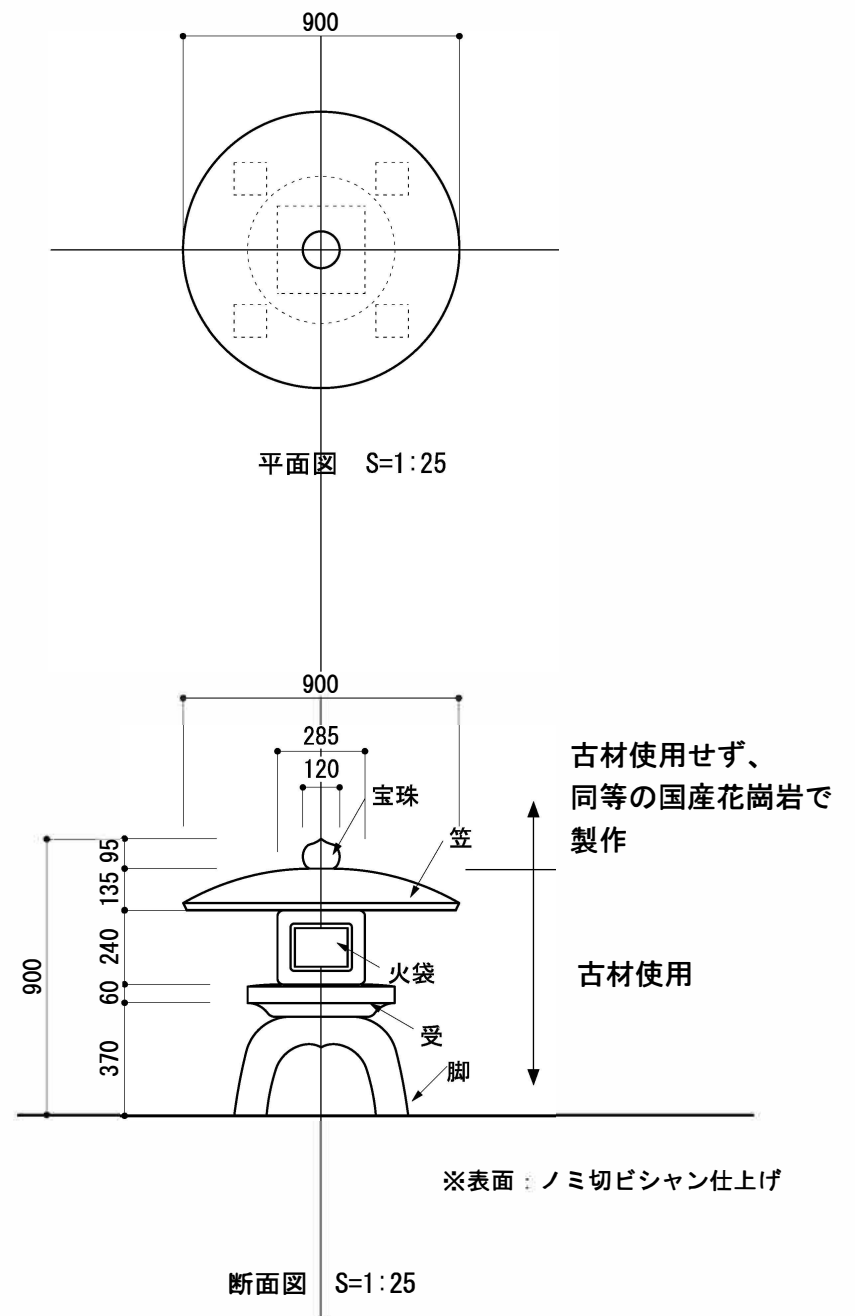


図 2-10 雪見燈籠-2 構造検討図（脚4本）

ウ 立ち手水鉢

- ・絵図より、立ち手水鉢の高さは雪見燈籠-2と同程度の900mmとする。
- ・立ち手水鉢は製作品とする。
- ・高さH=900mm、1辺200mmの六角型とする。
- ・水鉢の掘り込みは、φ230×H135とし、表面はノミ切りビシャン仕上げとし、各面1分程度のムクリ仕上げとする。
- ・根入れは総深さ600mmとし、設置する地盤の高低差を考慮して、施工時に高さを微調整する。GLから深さ300mmまで加工し、さらに300mmは荒石とする。

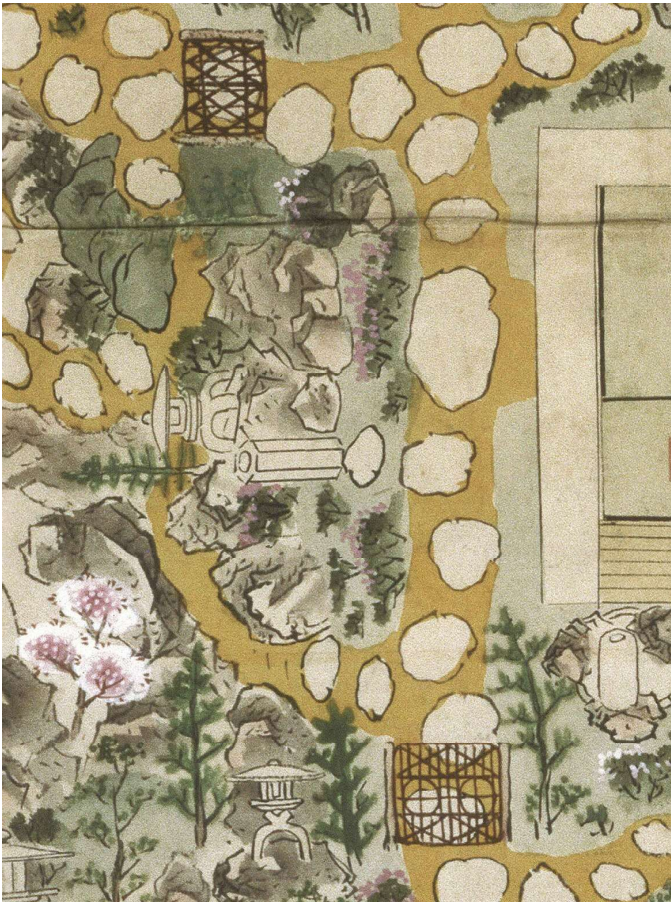
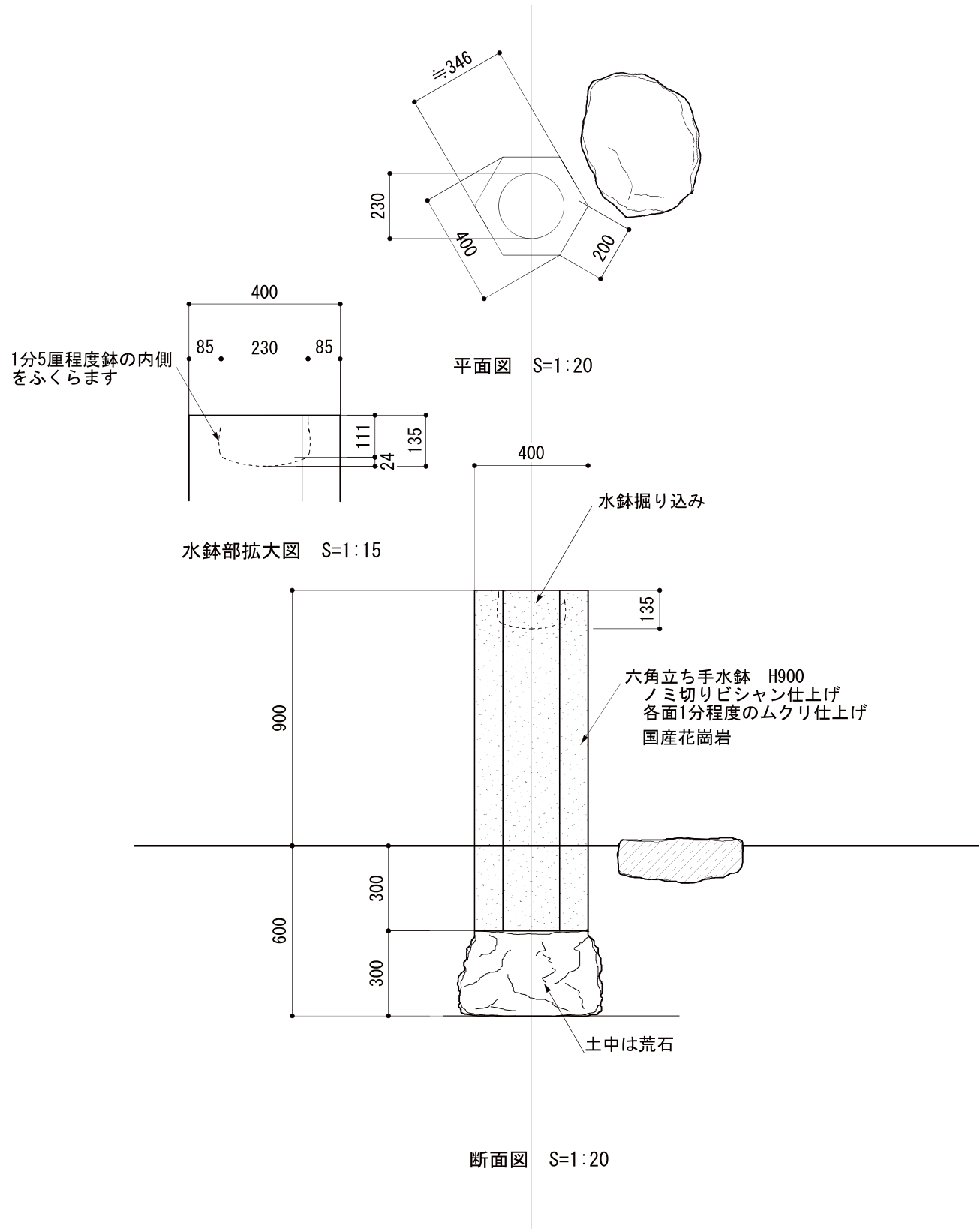


図 2-11 立ち手水鉢『御城御庭絵図』部分
(名古屋市蓬左文庫所蔵)

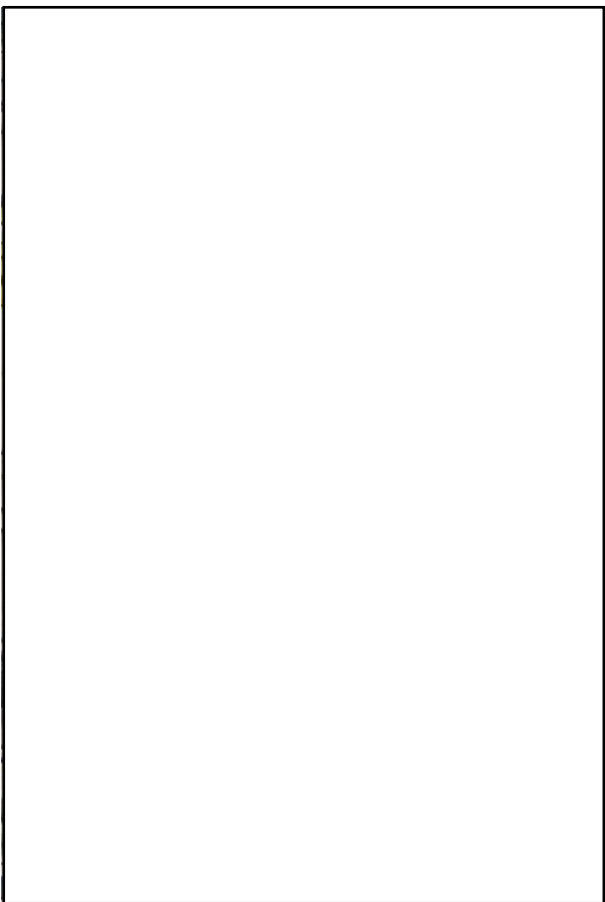


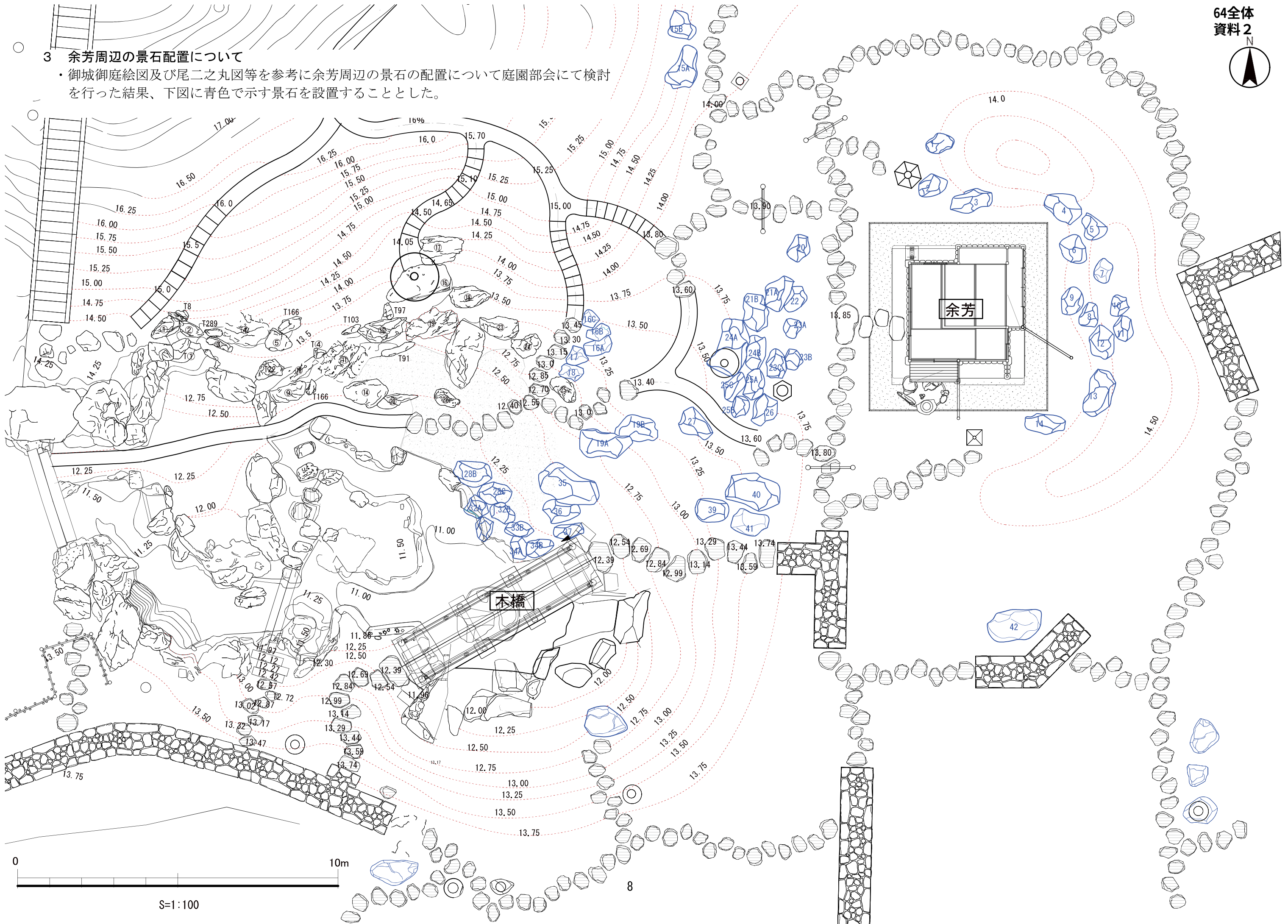
図 2-12 立ち手水鉢『尾二ノ丸御庭之図』
部分 (徳川美術館所蔵)

図 2-13 立ち手水鉢構造検討図



3 余芳周辺の景石配置について

- ・御城御庭絵図及び尾二之丸図等を参考に余芳周辺の景石の配置について庭園部会にて検討を行った結果、下図に青色で示す景石を設置することとした。



(2) 植栽配置の検討

植栽の配置については、下記の条件を考慮し、検討する。

- ・絵図を参考とする。樹種について、『御城御庭絵図』と『尾二ノ丸御庭之図』で異なる場合、『御城御庭絵図』に描かれている表現を優先する。
- ・建物や飛石等構造物に囲まれた地割ごとに周辺との関係を考慮し、配植を検討する。

ア 大木の配置

- ・絵図に大木として描かれているものは、各区域の中の位置や構造物との関係を考慮し配置する。
- ・大木については、絵図を参考に樹木の生育環境も考慮して配植を検討する。



図 4-2 余芳周辺『御城御庭絵図』部分（名古屋市蓬左文庫所蔵）

御樹木合印									
大木の類									
躑躅杜鵑花之類 (ツツジ、サツキ類)									
石巖 (キリシマツツジ)									
どうだん (ドウタンツツジ)									
紅葉之類 (モミジ類)									
冬木之類 (常緑広葉樹)									
松之類 (マツ類)									
縦扁柏楨之類 (モミ・ヒノキ・マキ類)									
百日紅 (サルスベリ)									
枝垂桜 (シダレザクラ)									
梅之類 (ウメ類)									
桜之類 (サクラ類)									
花 木			針葉樹		広葉樹			低 木	

図 4-1 樹木凡例 『尾二ノ丸御庭之図』部分（徳川美術館所蔵）

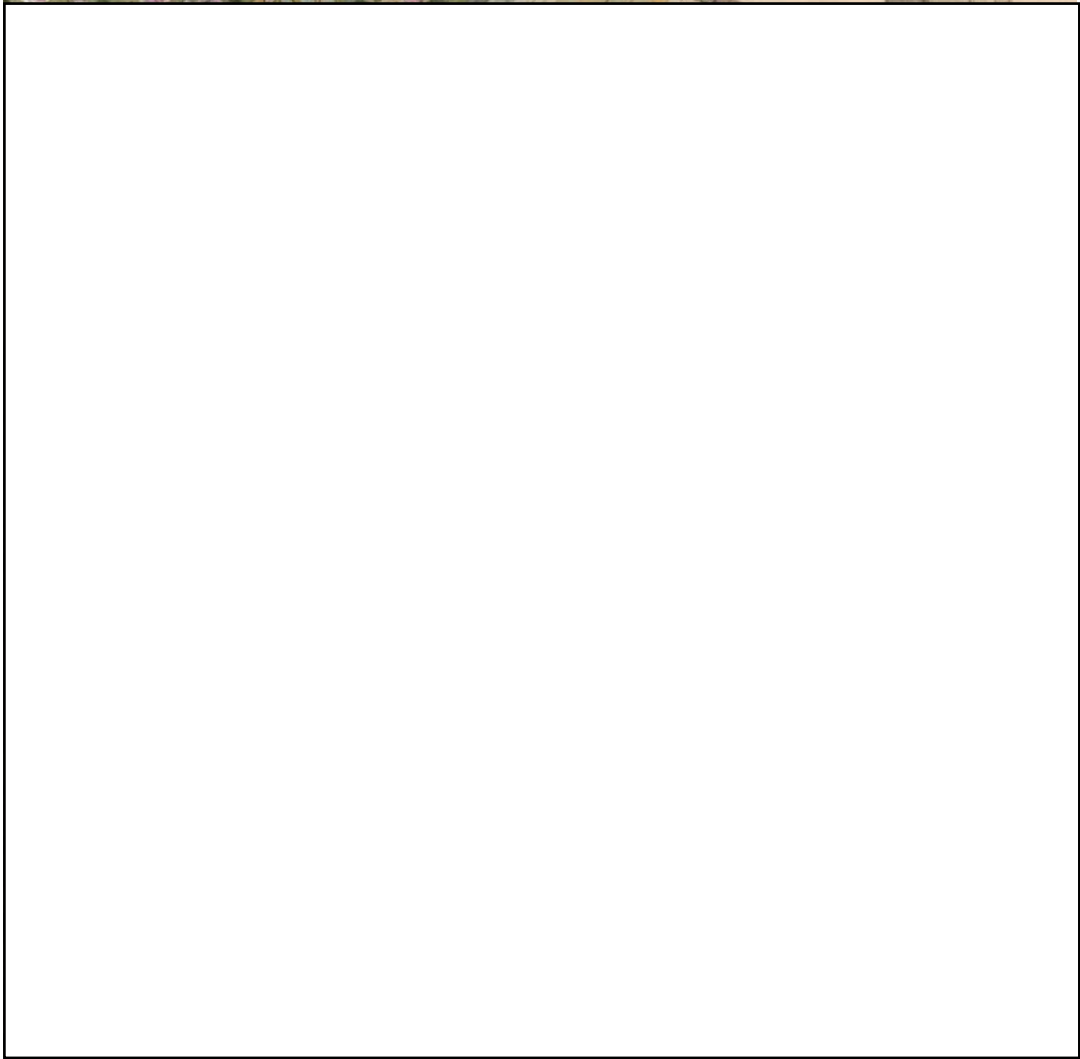


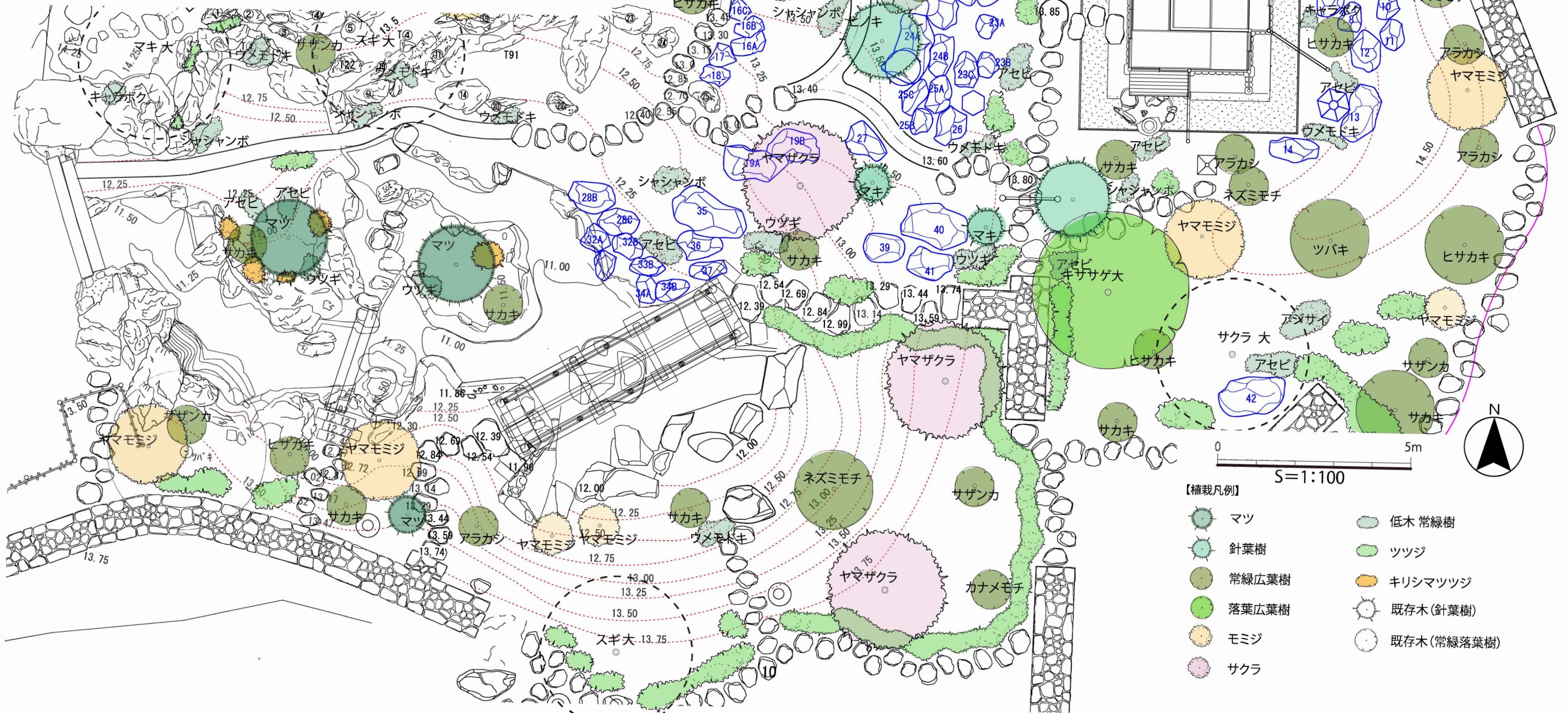
図 4-3 余芳周辺 『尾二ノ丸御庭之図』部分（徳川美術館所蔵）

イ 高木・低木の配置

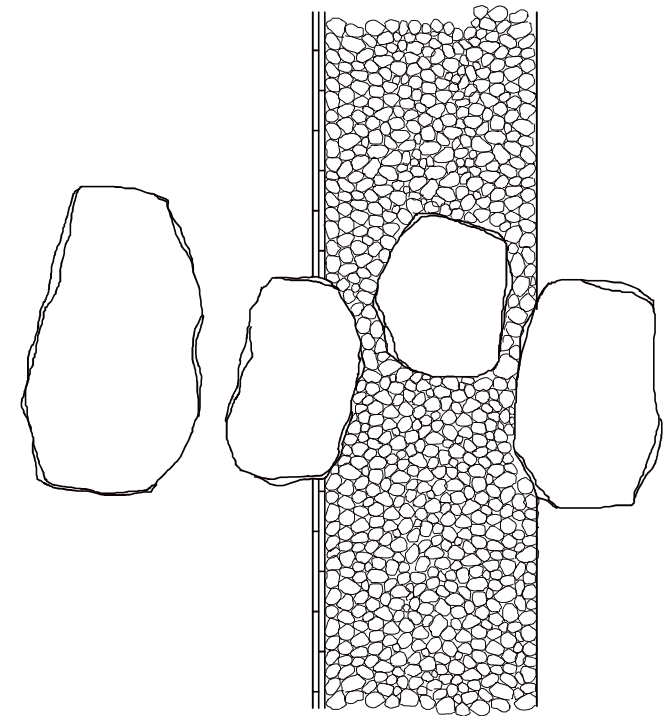
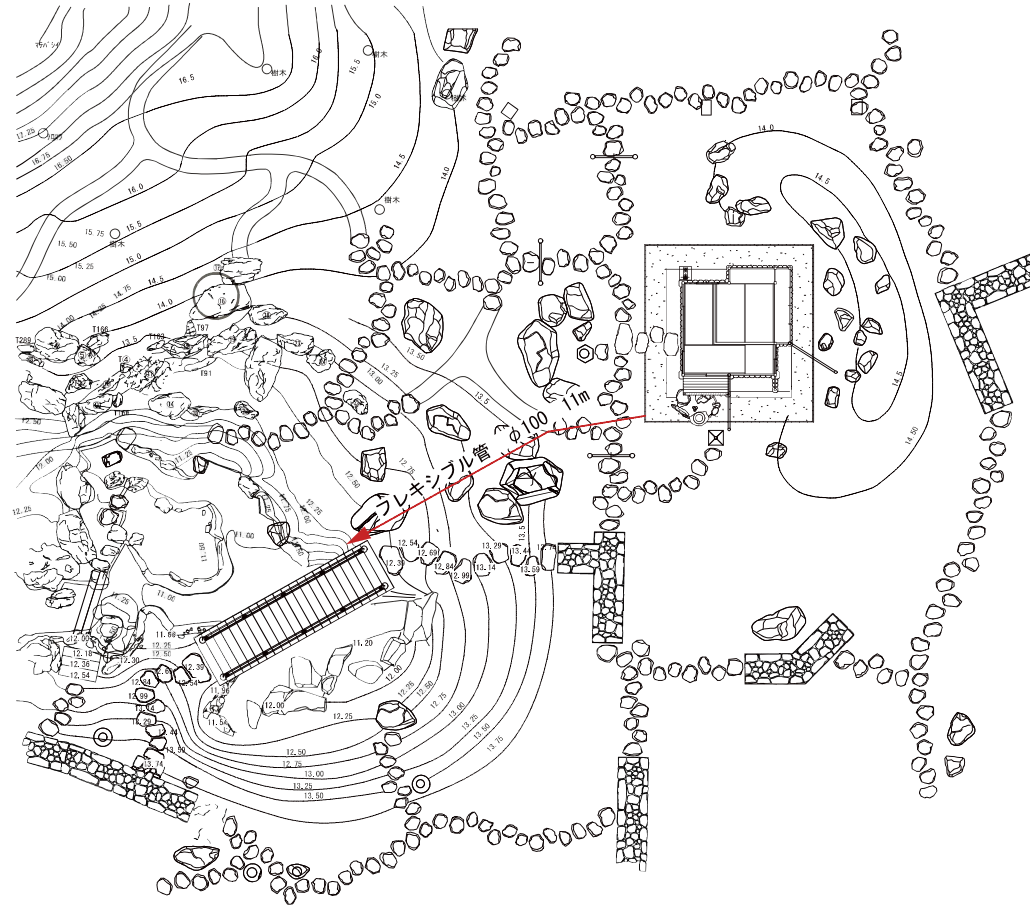
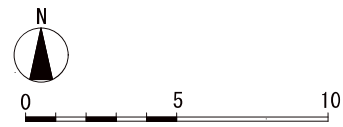
- ・ 絵図に大木以外の単木として描かれているものは、絵図の通りの本数を配置すると樹冠が密となるため、地割や各区域内の植栽密度を考慮し、また、現況植栽や周辺環境との調和を図り、配植する。
- ・ 絵図に低木の群植として描かれているものは、各区域の中の位置や構造物との関係を考慮し配置する。

ウ 植栽時の留意点

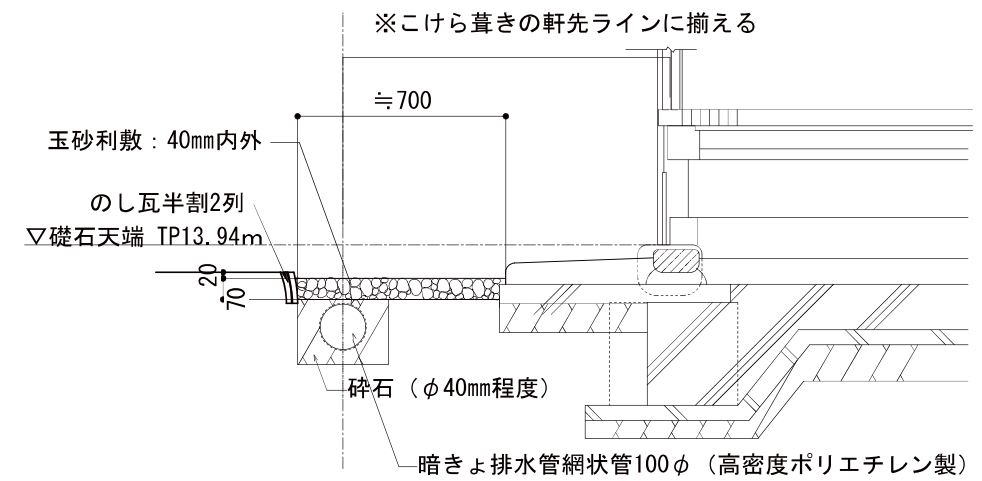
- ・植栽の土壌改良については、植穴掘削土にバーク堆肥、発酵鶏糞を混合し緩効性化成肥料の施肥を行う。植穴深及び樹木支柱については、地下の遺構に留意し適宜決定する。
- ・遺構に近接する箇所は、遺構保護のため防根シートを敷設する。
- ・植栽時は遺構に配慮して幼木を植栽するものとし、将来的に名勝にふさわしい植栽に育てていく。
- ・植栽にあたっては、庭園部会と調整を図りながら施工を進める。



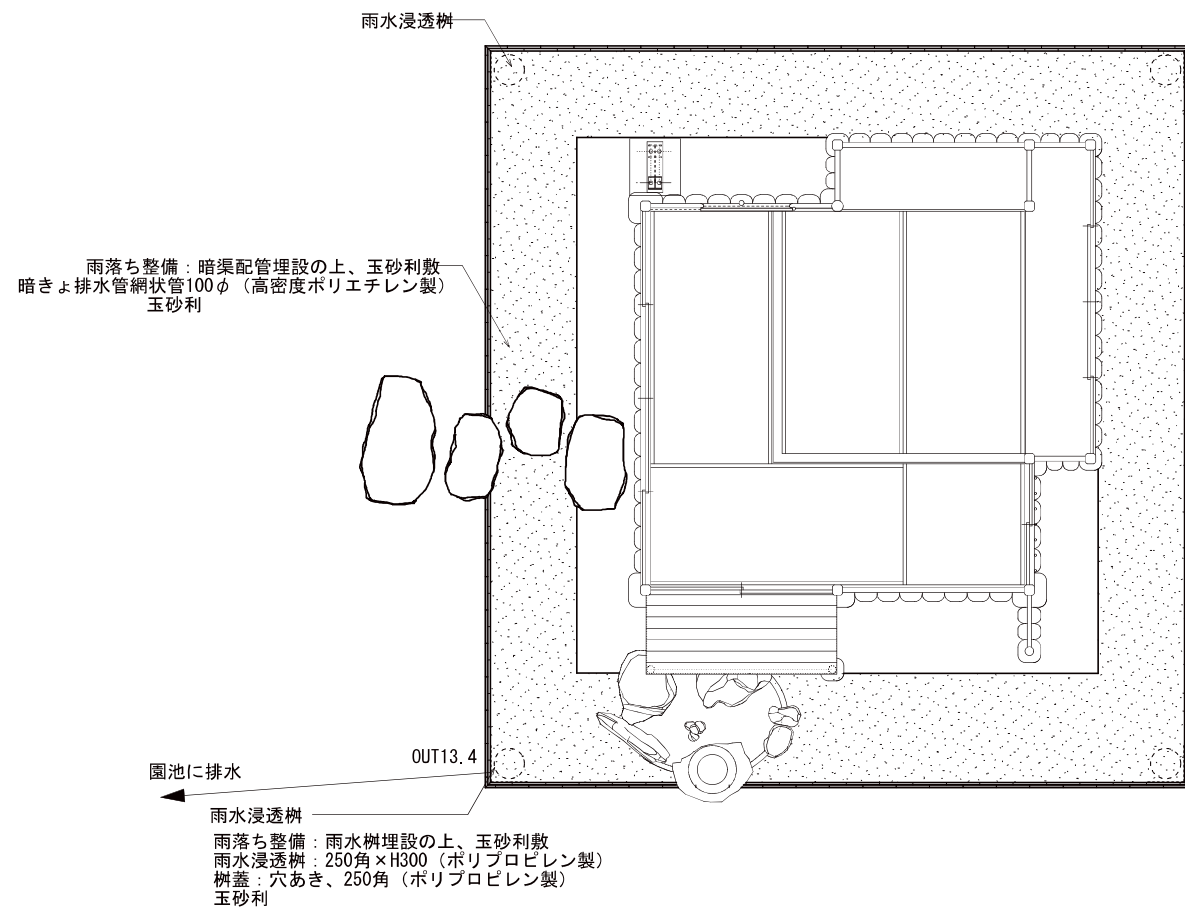
5 余芳の雨落ち



雨落ち平面図 S=1:25



雨落ち断面図 S=1:25



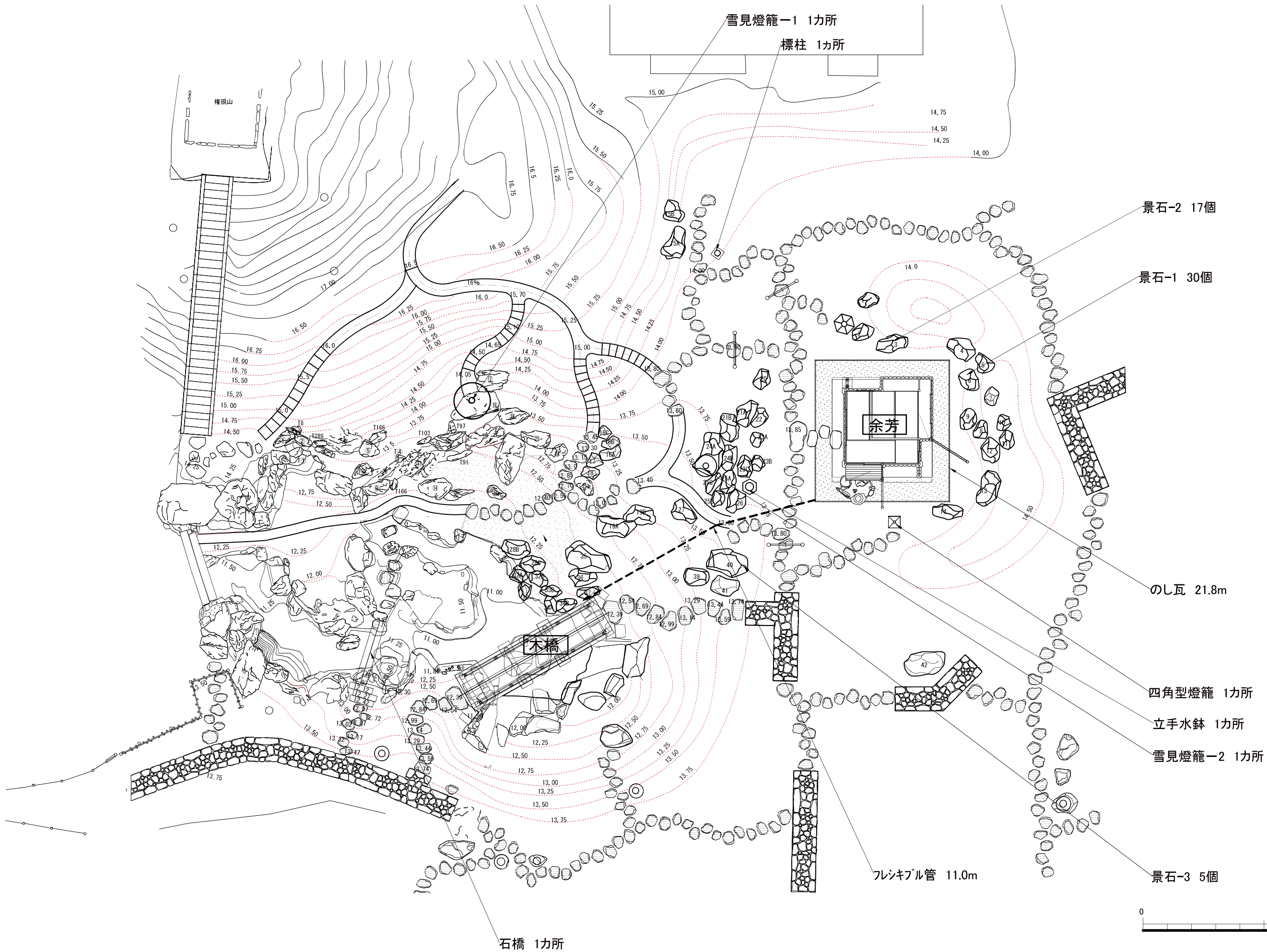
平面図 S=1:60



写真 5-1 熨斗瓦設置状況



写真 5-2 (参考) 南禅寺



S=1:150